

器51 医療用嘴管及び体液誘導管
一般医療機器 脳脊髄液ドレナージ回路 34586001

* F S ドレナージ回路 (4型/5型)

再使用禁止

【警告】

1. 使用方法

- 1) フィルタは、髄液等で濡らさないこと。[サイフォン効果による、髄液過剰排出の原因となる]

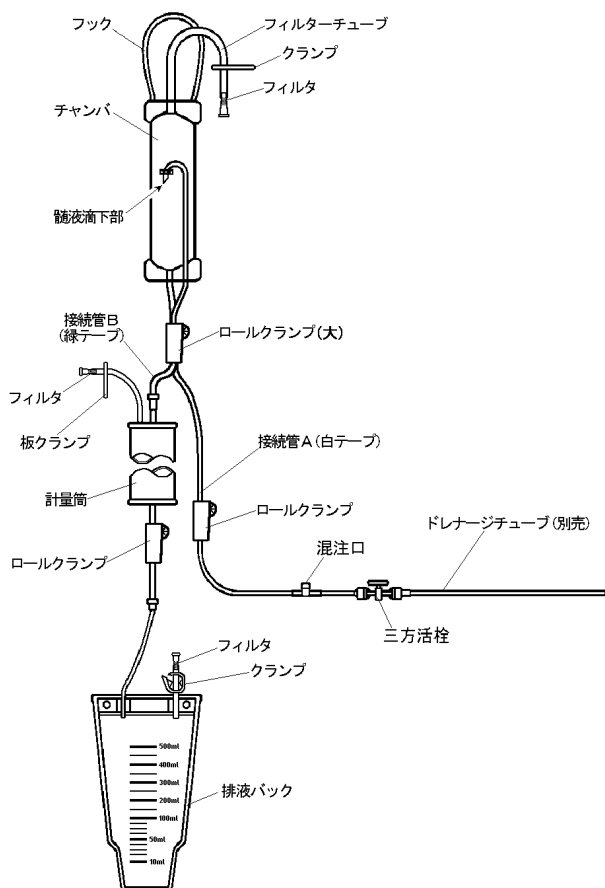
【禁忌・禁止】

1. 使用方法

- 1) 再使用禁止

【形状・構造等】

1. 本品は、塩化ビニル製のドレナージ回路である。
- * 2. 4型には計量筒付きの排液バック(弁なし)が、5型には排液バック(弁なし)がセットされている。
3. 何れの製品にも、高さ調節用スケールがセットされている。
4. 本品は、ポリ塩化ビニル(可塑剤：フタル酸ジ-2-エチルヘキシル)を使用している。



ドレナージ回路(4型で例示)

注意)

- **・5型には、計量筒は具備していない。
- *・5型の接続管Aには、ロールクランプは具備されていない。

【使用目的又は効果】

脳脊髄液の排出のために留置されたドレナージチューブと接続するために用いる。

【使用方法等】

1. 操作方法

本品はディスポーザブル製品であり、一回限りの使用のみで再使用できない。

2. 一般的使用方法

- 1) 接続管A(白テープ)のロールクランプを閉鎖し、併用するドレナージチューブと接続する。
- 2) 接続管B(緑テープ)のロールクランプを閉鎖し、付属の排液バックと接続する。
- 3) 回路を適正な高さに設定し、チャンバのクランプを開放する。
- 4) 排液バックのクランプが開放されていることを確認し、ロールクランプ(大)を開放した後、接続管B(緑テープ)、接続管A(白テープ)の順にロールクランプを開放してドレナージを開始する。

3. 使用方法等に関連する使用上の注意

- 1) ドレナージチューブ(別売)、計量筒及び排液バックの接続を間違えないこと。[ドレナージチューブは接続管A(白テープ)に、計量筒及び排液バックは接続管B(緑テープ)に接続すること]
- 2) 患者の状態に応じた圧設定(チャンバの高さ調節)が終了するまで、ロールクランプ等で全ての回路を閉鎖すること。[設定圧は、臨床上的判断により決定すること]
- ** 3) ロールクランプにより回路を閉鎖する際は、操作部(ローラー)を最後まで(ロールクランプ(大)の場合はクランプ内の接続管が交差ししない状態)で確実に操作すること。[接続管が交差ししていたり操作が緩いと、回路が閉鎖されない場合がある]
- 4) 髄液等の排出(ドレナージ)中は、ロールクランプ等で回路が閉鎖されていないことを確認すること。
- 5) チャンバは常に垂直に保ち、回路の途中に折れ曲がり等が生じていないことを確認すること。
- 6) ドレナージ開始時に設定した圧が、患者の体動等により変化していないことを常に確認すること。
- 7) 回路閉鎖の有無、排液の量、色調、性状等を定期的に確認し、異常が認められる場合は、臨床上的判断に基づき、適切な処置を施すこと。
- 8) 混注口に穿刺する際は、使用前に混注口を消毒すること。
- 9) 液漏れを起こすおそれがあるため、混注口を使用する穿刺針は21Gの穿刺針を使用すること。また、混注口の穿刺は30回までとすること。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 1) チャンバのフィルタが濡れた場合は、直ちに交換すること。
- 2) 髄液滴下部は、チャンバ内に滴下(留置)した髄液には触れさせないこと。[滴下した髄液に触れると、感染の原因となる]
- 3) ドレナージ開始後、体位変換や検査のために患者を移動させる際は、ロールクランプやクランプ等で、全ての回路を閉鎖した後にすること。

2. 不具合・有害事象

本品の使用に際し、以下のような不具合・有害事象が生じる可能性がある。

1) 重大な不具合

- ・ 接続管等の屈曲による回路の閉塞

2) 重大な有害事象

- ・ 急激な脳圧降下による意識障害
- ・ 髄液の過剰排出による硬膜下水腫、硬膜下血腫
- ・ 脳ヘルニア
- ・ 脳室内出血
- ・ 逆行性感染

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

水濡れに注意し、高温、多湿な場所及び直射日光を避けて、清潔な状態で保管すること。

2. 有効期間

使用期限は製品ラベルに記載。[自己認証(当社データ)による]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元 富士システムズ株式会社
TEL 03-5689-1927